

■山名文夫 日本のグラフィックデザインの先駆者。アール・デコスタイルで知られ、{資生堂}の企業イメージをつくった。

やまなあやお

八幡製鉄始・1897＝ 広島県広島市に生まれる。

誕生の前年には、東京美術学校に図案科が設立され、その前年には、博報堂(内外通信社博報堂)が創立、

田中正造直訴1901＝ 4歳：電通(日本電報通信社)創立され、岩谷対村井のタバコ広告戦など、広告、デザインの時代が始まり、

日露戦争終・1905＝ 8歳：
満鉄発足・・・1906＝ 9歳：

大逆事件判決1911＝14歳：最初のポスター公募が三越によって行われ、橋口五葉登場の契機となるなど、本格化するなか、
明治天皇没・1912＝15歳：

竹久夢二や北野恒富、オーブリー・ビアズリーに憧れ、模写に没頭、無手勝流で絵を描き、和歌山県立和歌山中学校を卒業すると、

21ヶ条要求・1915＝18歳：
民本主義・・・1916＝19歳：大阪へ出て、{赤松麟作洋画研究所}第2期生となり、絵画を学ぶ。第1期生には佐伯祐三がいた。
ロシア革命・1917＝20歳：同人誌{Chocolate}に加わり、作品や詩を発表するが、収入は無く、

父が死去して恩給が無くなって久しい母のもとに転がり込み、何とか画家となって収入を得ようと、女性画に挑戦するが、うまく描けずに悩んでいたところ、

原敬首相暗殺1921＝25歳：

関東大震災・1923＝26歳： “クラブ化粧品”で知られる大阪の化粧品会社{中山太陽堂}が併設する出版社_{プラトン社}が前年創刊した誌{女性}の図案家募集の広告が目に入り、そのレタリングを一手に引受けていた山六郎を絵の仲間から紹介して貰い、それまでの作品持って訪問、可能性を認められて、入社。山の描くものを必死に習得する一方、大震災で失った発表の場を{プラトン社}に求めに来た東京の文壇・画壇の人たちから刺激を受け、新雑誌{苦楽}創刊号でデビューした直木三十五が入社、矢継ぎ早に出した文芸書の一つ、_里見弴「四葉のクローバー」で初めて装幀者となり、{サンデー毎日}にも挿画を連載し始める。

治安維持法・1925＝28歳：講談社が{キング}を創刊する一方、川口松太郎編集長や挿絵画家岩田専太郎ら東京人が引揚げ、
円本時代始・1926＝29歳：杉浦非水らの{七人社}、浜田増治らの{商業美術家協会}が結成され、日本初のデザイン団体となる。_苦境に陥った{プラトン社}が東京に場を移すのに従って上京。{女性}上の作品が若い女性の人気を集めるも、あまりのモダンイズムで、組めるような小説家が見いだせないなか、自選カット集も出版されるが、

共産党事件・1928＝31歳：主知主義に抵抗すべく、挿絵画家が一堂に会した第一回主情派美術展覧会のカタログに女性憧憬の詩的文「ROMANIA」を書く。_ {講談社}の攻勢に敗れた{プラトン社}が解散となり失業、帰郷し無聊かこつうち、独立して図案社を開いた沢令花からの後釜にとの誘いで、化粧品会社*{資生堂}の意匠広告部に入るや、実力が花開き、社長福原信三が創った“花椿マーク”や“de Luxe”の唐草模様を飛躍的に洗練させ、広告紙上のアール・デコ調の“モダン・ガール”など、話題を独占するようになると、部長との確執が高まり、

海軍軍縮条約1930＝33歳：{広告界}の{営業別広告図案選集}12冊のうち「カフェ・バー・喫茶店」を担当出版。
満州事変・・・1931＝34歳：{東京広告美術協会}結成に参加(のち自ら主張し美術が作家に)、広告美術の語も広まる。
五一五事件・1932＝35歳：_フリーになりたく退社。{アド・スタジオ}設立するも挫折。謎のデザイナー指導者太田茂英の配慮で、
国際連盟脱退1933＝36歳： 23歳の写真家名取洋之助主宰の{日本工房}に参加、制作した鐘紡のロゴマークは長く使われる。

帝人疑獄事件1934＝37歳：空中分解し、_名取が改めて第2次{日本工房}を立上げ、創刊した外国向け日本宣伝誌{NIPPON}のデザイン一切を任せられ、好評を得る一方、名取から雑誌編集やグラビア構成を習得するも、ハードになり、
二二六事件・1936＝39歳：_意匠広告部を一新しようとしていた福原信三に請われると、その存在を知ったばかりの亀倉雄策を後任に辞め、再び{資生堂}に入社。新聞に出す小さな香水の広告が逆に目を引くほどのデザインをし、

日中戦争始・1937＝40歳：*福原が{資生堂花椿会}を組織して発刊した{花椿}の一切をデザイン、広告誌では稀有な有料に充分に応え、この年の化粧品「カーマインローション」のパッケージデザインは現在なお使われているが、これら{資生堂}イメージは軍部の嫌うもので、戦争が始まるや軍部介入、資材不足などで製品すら作れなくなるなか、

第二次大戦始1939＝42歳：ニューヨーク万国博写真壁画に参加し、国内展示される。
大政翼賛会・1940＝43歳：東京五輪ポスターの審査員をつとめる福原社長のお達しで応募、2等になって面目を果たす。森永製菓宣伝部の今泉武治が内閣情報局小松孝彰と親交する新井静一郎を伴って現れ、_国民啓蒙宣伝活動への参加を打診され、{報道技術研究会(報研)}を組織して委員長になると、展示報道という方針を示し、

日米開戦・・・1941＝44歳：母が死去。_情報局後援で主催した「太平洋報道展」を企画監督、大評判となる。終了直後、不整脈で倒れるが、以後、{報研}は情報局から、金銭面で十分保障された上、仕事も次々来るようになる。

・・・・・・1942＝45歳：大政翼賛会に入った新井の引きで、_花森安治に呼ばれ、新井のコピーもとに12月8日一周年記念の大型ポスター“壁新聞”をデザインして大評判になり、{報研}には大政翼賛会からも次々注文。

創価学会検挙1943＝46歳：_ついに資生堂を敵になり、{報研}専従になると、会員の想い託す「宣伝技術」を発行して、檄文を書き、
敗戦・・・・・・1945＝48歳：空襲で、{報研}が移転繰返し、翼賛会が解散して花森が移った{恩寵財団戦災援護会}の仕事をするうち、かつて何度も会った川本信正と久富達夫が下村宏のもとで仕組んだ玉音放送を聞いて、敗戦を迎え、

新憲法公布・1946＝49歳：花森に頼まれ、_服飾手芸のための「花の図案集」を制作、びやかなイラストとそれに優しい詩を添え、
新憲法施行・1947＝50歳：多摩造形芸術専門学校(多摩美術大学)の図案科教授と藝術。_発行されるや大ヒット。
極東裁判決・1948＝51歳：恩地孝四郎装幀の式場隆三郎編著「ビアズリーの生涯と藝術」で、影響を受けた装幀図案家数名のなかに、山六郎とともに挙げられている。_ {資生堂}に復帰直後、福原が死去。

三大事件・・・1949＝52歳：共著で愛育文庫10「子供部屋 - 童詩集」、
朝鮮戦争始・1950＝53歳：_ {新潮文庫}の葡萄マークをデザイン。
独立回復・・・1951＝54歳：*亀倉雄策、早川良雄と{日本宣伝美術会(日宣美)}を設立し、初代委員長に就任。
TV放送始・・・1953＝56歳：_個展開催に合わせ、戦前の作品をまとめた「Yamana-Ayao装画集」出版、スーパー「紀ノ国屋」のロゴ制作、
自衛隊発足・1954＝57歳：花森が戦前のことを全く封印してしまうなか、広告における戦争犯罪について新井が初めて触れた年、自らは_毎日産業デザイン賞特別賞。

安保闘争・・・1960＝63歳：
全国総合計画1962＝65歳：著書「広告のレイアウト」、
TV宇宙中継始1963＝66歳：「山名文夫新聞広告作品集 - イラストレーションとレイアウト」、
大学紛争始・1965＝68歳：日本デザイナー学院を設立し、初代学院長。成城の自宅兼アトリエを閉じ、多摩市桜ヶ丘に転居。
美濃部都知事1967＝70歳：多摩造形芸術専門学校を退職。勲四等瑞宝章。_電通の機関誌に、「体験的デザイン史」の連載を始め、
全共闘・・・1969＝72歳：{資生堂}の宣伝部制作室長を辞し、翌年には日宣美も解散、
ドルショック・・・1971＝74歳：「山名文夫イラストレーション作品集」、
石油ショック1973＝76歳：

角栄金脈辞任1974＝77歳：_ {資生堂}の新入デザイナーが今も指導受ける日本文字からアルファベットまでの書体(タイプフェイス)の手引書を作成するなど、その後も、{資生堂}のイメージアップに貢献し、現役デザイナーとしても活躍、
ケランブル事件1975＝78歳：戦前のことを隠すことなく綴った連載が終わって推散中、CO2中毒に陥り、一命取留めるも言語障害麻痺、
田中角栄逮捕1976＝79歳：_膨大な数の人物が登場し、巻末には、日本のデザイン界の略年表のある「体験的デザイン史」を刊行、
成田衛突・・・1978＝81歳：花森が死去、新井・今泉と共著で「戦争と宣伝技術者」を刊行、
革新大敗北・1979＝82歳：_ {資生堂}のイラストレーターによるシリーズ広告「私の美人像」の最後を飾るイラストを描いて、
貿易摩擦問題1980＝83歳：*没した。没後、「私の美人像」は朝日広告賞最高賞となり、日本宣伝クラブは、その年業界の隆盛に功績のあったクリエイターに贈る「日本宣伝賞山名賞」を創設する。

馬場マコト「戦争と広告」、Wikipedia。山名文夫「新装復刻版 体験的デザイン史」で追補、